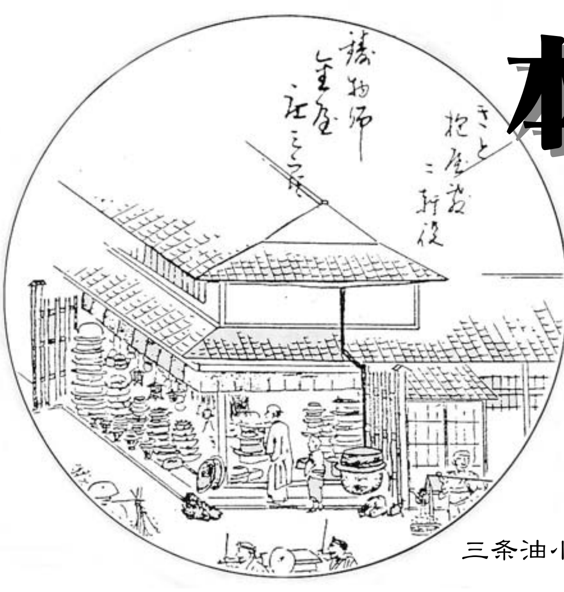

三条油小路町絵図より鋳物師釜屋庄三郎方

本能まちづくりニュース

第２２号　平成１６年4月２０日発行

本能まちづくり委員会
委員長　西嶋直和

E-mail:　post@honnoh.net
URL　http://www.honnoh.net

大盛況「本ものに出会える日」

3 月 20 日、京都市の「伝統産業の日」にちなんで、本能まちづくり委員会では、「本ものに出会える日」を開催しました。

拠点の四条京町家

拠点の四条京町家は、11 時の開館前から行列ができるほどのにぎわい。町家一階での、京野菜細工・下絵・刺繍の実演、二階でのマイキモノプロデュース、中庭での甘酒の接待、本能学区一帯での公開工房ガイドツアー、３軒の工房と会議室で体験、と、盛り沢山のメニューで、お客様を迎えました。

町家受付に飾られた着物は、もとは現在 88 歳のおばあさんの花嫁衣裳で、金彩がほどこされて艶やかに甦り、昨年 6 月孫娘さんが婚礼に「ひきずり」として着られたそうです。一枚の着物に、着物そのものの価値に加えて、地元ならではの修復技術力、祖母から孫への伝承の温かみが感じられました。

甦った振袖

今回のガイドツアーは、着物ファンの要望にこたえて、着物がどのような分業の流れでできあがるのかを知ってもらえるように、まちづくり委員会が試作した着物の制作工程を順にたどるコースと、その他の制作工程をたどるコースがもうけられました。

Ａコース

試作着物「四季折々」

友禅染めの着物は十数種の分業工程を経て出来上がりますが、紹介されるのはそのうちの６工程です。６工程の各段階まで制作したものをつくって各工房に置き、さらに、一反染めて仮絵羽に仕立て京町家に展示しました。

京町家で、まず下絵（高岡氏）。試作着物は、こげ茶濃淡ぼかしの地色に、昔の玩具（こま･まり･羽子板・でんでん太鼓等）、季節の風物（雛人形･兜・菖蒲や紅葉等）や干支の柄をあしらった手描友禅訪問着「四季折々」です。高岡氏が下絵を描かれました。

⇒　糊置（福本氏）　下絵の模様の上に防染のための糊を置きます。手で触ると糊が盛り上がっています。

⇒　引染（勝山氏）　糊を置かれた図柄以外の地色を染めます。二色使ったぼかし染めもありました。「色の濃淡は勘で。糊の濃さも染料の色にあわせて調節。」

⇒　挿し友禅（上木氏）　糊を落として白く抜かれた図柄を彩色します。「どんな色にしようか、考えもって色を挿す・・・経験で、そう迷うことはないけど。」

⇒　金彩（荒木氏）　柄に金彩がほどこされ、豪華になります。工房ではハープやバイオリン等、西洋楽器の金彩模様を制作されていました。音楽の好きなお方のご注文でしょう。

⇒　刺繍（片岡氏）　図柄のところどころに刺繍されると立体感が出ます。工房見学を終え、町家に帰って片岡さんの刺繍を見ました。

B・C・Fコース

中東さんは、型を使った板場友禅染めで、下絵⇒糊置き⇒彩色の工程。例えば、8 色の模様を仕上げるのに 18 枚の型紙を使って染めては乾かす作業を丹念に繰り返します。

びん工房さんは、下絵⇒糊置き⇒挿し友禅・引き染めの一貫制作です。墨で胡蝶蘭やカトレアの図案をさらさらっと描かれた瞬間には、見学者からため息がもれました。

村田さんは染めあがった着物に紋刺繍をほどこす工程です。細かい刺繍の型紙を見せていただきました。

馬場さんは、地下水を生かした黒染工場。「老舗ほど革新的」を信条とされるご主人は、ひとりで楽に着られ、ハンガーに掛けてしまえる「らくらく着物」を考案。Tシャツ・Gパン姿のお嬢さんが 5 分で着物姿に変身。5 分で着物を片付け元通り。持ち運びも簡単。色々着こなせる若い人に向きそうです。

京町家一階では、岡田氏の京野菜細工の実演。見学を終えると、中庭で甘酒をいただいて一服。

甘酒で一服

町家二階のマイキモノプロデュースでは白生地が 30 近く売れました。

本能学区内にすべての工程が揃っているわけではないので、工程によっては外に出されますが、今回公開された職人さんの工房を廻って、自分で選んだ色柄の京友禅・色無地・京小紋等の染めの着物が市価よりやすく出来上がります。

本能仮設会議室では組紐体験教室。携帯ストラップづくり。午前中は大人向け。「右を上にして，後ろに回して輪を作り・・・」と野垣先生。生徒さん「右を上にして・・・・・・おぉお！！なんか知らんが出来た！」感動～の一瞬。組んではほどき、ほどいては組み、はまってしまわれた様子でした。午後は、昨秋「おーいニッポン、とことん京都府」で活躍してくれた本能陸上クラブの、6 年生参加者を招き卒業記念につくってもらいました。「初めはなかなかできひんかったけど、二つ目、三つ目とつきっきりで教えてもろたら、もう終わり頃には説明書を見ただけで自分で結べるようになったよ。」

組紐体験教室

自分で結べるようになったヨ

園染工さんでは、絞り染めスカーフの制作体験 14 名。スイスからの留学生さんも制作。輪ゴムで絞り、色を選びます。そして、満足のいくものができました。

スイスからの留学生も参加してのスカーフ制作体験

新聞報道の効果でしょうか、ガイドツアー参加者は、午前午後合計 18 組 172 名、昨春の 1.5 倍。京都市内からと市外・他府県からのお客様が半々、近畿圏のみならず遠く北海道・関東・中国地方からもお越しでした。あいにくの雨で、着物姿の方にはお気の毒でしたが、お出で下さりありがとうございました。案内役フル稼働、時には工房が満員になりました。ご協力いただいた工房の皆様、スタッフの皆様ご苦労様でした。

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。http://www.honnoh.net

日本の着物文化を継承したい

3 月 20 日春分の日。この日は伝統産業の日として京都の各地域で京都の伝統文化に触れるイベントが開催されています。私は、今回初めて参加させていただきました。この日のために、本能まちづくり委員会のみなさんは、様々な計画をたてておられました。着物ができる工程を見て回るツアー、四条京町家でも、野菜を使っていろいろな形に包丁で作り上げる実演、マイキモノプロデュースなどです。私は、紋付と袴を着せていただき、一日それらをお手伝いというより、参加者の方々と同じように見せていただきました。

着物の工程は、何もかも初めて見ることばかりで、本当に感動を覚えました。日本の美しい文化であると感じました。それは、着物の美しさはもちろん、職人の方々の着物に対する熱い思いがひしひしと伝わってきたからです。この美しい着物をどうか今の若い人々にもわかってもらいたい、そして日常的に着物を着て欲しい、そんな思いを持っていらっしゃいました。お話を聞きながら、工程を見ているうちに、どうして今の人は和服を日常的に着なくなってしまったのだろう、大そうにではなく和服を着ることができたらどんなにおしゃれだろうと思いました。日本人として、これほどまでに美しく、すばらしい文化として継承されてきた着物を、また次の世代にも伝えたい、伝えなければいけないとさえ思えました。

もう一つ感じたことがありました。普段着慣れない袴を一日着ていて、正直申し上げて、しんどかったです。それと同時に、普段、姿勢も悪く女性としての佇まいをおろそかにしてしまっているのだろうと反省しました。昔の人々は、着物を着ることで、姿勢を正し、健康で若々しく過ごしておられたのでしょう。現代病などといわれる病気も、昔は存在しなかったわけですから、現代人が忘れてしまっている心や振る舞いもそれらの原因の一つなのかもしれません。伝統文化を受け継いでいくこと、それは良いものを語り継いでこられた先祖に敬意を払い、母国に対して、愛情を持つことではないでしょうか。

紋付袴で、ご苦労さまでした

私は、この一日でそんなすばらしい日本の文化を深く感じた気が致します。とても貴重な体験をありがとうございました。

京都府立大学　宗田研究室　吉田治美

本能学区で学んだこと

私は、まちづくりの勉強をするために、一年間本能まちづくり委員会でお世話になりました。大学では学べない事が、本能学区ではたくさん学べたように思います。会議に参加させていただくうちにだんだん知っている方が増え、本能学区を歩いていると挨拶をする機会も徐々に多くなっていきました。地元以外に挨拶が出来るまちができたことは本当によかったと思います。

また、「歩いてくらせるまちづくり」や「本ものに出会える日」は、伝統文化について考えるきっかけとなりました。今までは、こんなに間近で着物に触れる機会がなかったため、特別なもの、高級なもの、というイメージがありました。しかし、職人さんの話を聞き、作業姿を見ていると、着物は身近なもの、という考えに変わっていきました。そして、あんな綺麗な着物がいっぱいあるのなら、私ももっと着たいと思いました。

現代社会では地域のコミュニティが希薄化しつつあると言われていますが、本能学区はまだ失われていないと感じました。まちづくり委員会の活動や着物文化、日常の挨拶による交流があるからです。今後、ますます挨拶人口が増えるようなまちになることを願っています。一年間、本当にありがとうございました。

京都府立大学環境デザイン学科　藤原真理

探訪　“熱～い”まちづくり交流博

第２回京都まちづくり交流博(2 月 23 日～3 月 7 日)が、ひと･まち交流館京都で開催されました。

3 月 7 日はパネル展示(77 団体)の前で、それぞれの団体の方が活動内容を説明、また 12 団体によるステージ発表や｢まちづくり屋台｣と称したワークショップ活動が行われました。日ごろ京都でまちづくり活動に携わる、幅広い年齢層の人た達が集い、交流と情報発信に熱い時間と空間でした。

議論白熱のまちづくり屋台

本能まちづくり委員会からは、パネルを出品し、産業文化･地域とマンション･広報の３部門の屋台に参加しました。ここで得た貴重な情報を今後のまちづくりに生かしたいと思います。（Y．N．）

本能生活安全講演会“大切なのはみんなの目”

3 月 24 日、本能仮設会議室において、生活安全講演会が行われました。

昨年、本能学区が「中京生活安全モデル地区」に指定され、生活安全会議･自主防犯設立準備委員会が発足しました。今回の講演会は、この委員会が一年間の活動のまとめとして、そして、今年 4 月に組織された自主防犯委員会の今後の展望を開くために開催されました。

「まちの防犯について」

中尾均（京都府防犯設備士協会副会長）

事前に、防犯面から本能学区内の駐車場と公園を診断したところ、間口が狭く奥まった所に広がり、やや見通しが悪い。防犯灯を若干増設するとよいが、総じてかなり優秀なレベルである。防犯灯については、明暗に差があると、暗いところがより見えにくくなるので、満遍無く全体を 10 ルクス程度に照らすようにするのが効果的。安全を考えるなら防犯カメラの設置も一法ではあるが、もしダミーの場合にそれが見破られたら逆に危険。やはり周囲の人々から見られているということが犯罪抑止につながる。小さな犯罪をなくすと、重要犯罪も減少する。本能学区内に防犯上差し迫った問題があるようには思わないから、タバコのポイ捨てを拾うこと、ゲーム感覚で悪いことをしている子供を見つけたら叱ること等、日常の軽い小さな犯罪をなくすことから始めてはどうか。

「みんなで行う防犯」

宗田好史（京都府立大学助教授）

今まで日本は治安のよさを誇っていたが、この 2、30 年で社会状況が急速に変化し、犯罪が増加、検挙率が低下し、安心安全が揺らいできている。警察まかせの防犯に安住している間に、またご近所づきあいを何となく煩わしいと感じて疎遠になる間に、スキができ、誰も気付かないところで何かが起こる状況になったといえる。

今こそ、隣近所の目配り・気配りが必要であり、皆で安全な暮らしをとりもどそうではないか。凶悪犯罪の検挙に防犯カメラが役立ち、カメラを設置するところが増えてきたが、今度は映像の扱いが問題になる。それなら、良識ある大人の目で見る方が信頼できるだろう。

たとえば、この 1 年間に自主防犯設立準備委員会が学区内の夜間パトロールを行った結果、行政・町内会・商店街・個人が設置する街灯だけでなく、各戸の門灯が夜間の明るさを大いに助けていることがわかった。自分のために点ける門灯が、周囲のためにおおいに役立っている。

「一隅を照らす」この門灯のような存在が、地域の住民による防犯活動である。犬の散歩・ジョギング・門掃き・水撒き・買い物のついでに、何かの変化に気付いたり、出会った子供やお年より・ご近所様に目を配り・声かけしたりすることが、防犯につながり、まちに暮らす実感を深めることにもなるだろう。

“大切なのは、みんなの目”
生活安全講演会より

本能まちづくり委員会では、「住みたいまち、育てたいまち、働きたいまち　本能」の実現には、まず「安心・安全のまちづくり」＝防犯意識を高めること、が必要であると考えています。自分の周囲にほんの少し目配り・気配りして、まちと接点をもち、安全な暮らしを私達の手で築こうではありませんか。

本能まちづくり委員会の
次回開催は
平成16年5月6日（木）午後7時から
場所　本能会議室　当日飛び入り歓迎!!

編集後記　◎まちづくり交流博のパネル展示のコーナーでは、ステージ発表にも参加していた、中京中学校の生徒さんが、花の種や苗を「よかったら、育ててください」と声をかけながら配っていました。次代を担う若い人から「まちを愛する気持ち」が伝わり、これからの京都のまちづくりに対する頼もしさも感じられました。Y.N
◎公開工房ガイドツアー、賑わいました。午前午後ぶっ通しで、手を動かし、喋り続けで、実演・解説して下さった工房の皆様、お疲れ様でした。見学された方々は着物の魅力を感じとられたことだと思います。N村
◎本能まちづくりに興味をお持ちの方、年齢性別は問いません、委員会への参加お待ちしています。ＭＯ

連絡先⇒西嶋直和　E-mail:post@honnoh.net　（075）221-6826　TEL・FAX 兼用